

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」
第84回（通算第163回）定例会 会議録

◆日時：令和5年12月19日（火） PM7:05～8:05
◆場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室
◆出席者：14名 + オンライン3名
別紙のとおり

1. 「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19:05～20:05】

19:05～	開 会
19:05～19:10	情報提供 映画「明日香に生きる」上映会 和歌山県鍼灸師会の報告
19:10～19:40	情報提供・研修 「入院デイ はじめました」 講師：南和歌山医療センター 作業療法士 中瀬 浩司 氏
19:40～20:05	情報提供・研修 「“慢性便秘症の診療ガイドライン2023”の解説」 講師：EA ファーマ株式会社 村上 隆 氏
20:05	閉 会

【講義内容①】

●入院デイ
・目的
→①離床を促す機会、②身体機能、日常生活動作能力の改善、③認知機能の維持改善、④せん妄の早期離脱、⑤精神機能の賦活
・概要
→脳外科病棟入院患者を対象に、3～5名の参加者。実施は毎週火・金の15:00から15:30病棟師長、病棟看護師、認知症専門看護師、作業療法士の4名で実施。

・内容

→見当識強化（認知面）・全身運動（身体面）

声かけを工夫して、なるべく自分で考えてもらう、選んでもらうように意識している。

ナラティブとは物語、人となり。その人らしさやその人を知ってケアをする

人は目が慣れているものを好む。例えば新聞も全種類用意して、好きなものを選んでもらう。

入院生活は与えられるばかり。なので、“選択する機会”はあったほうがいいと思っている。

全身の関節を動かすことを意識している。

・今後について

→活動の習慣化（患者や職員への周知）、活動の回数増加、評価（認知機能・せん妄・満足度）、入院生活の活性化

【講義内容②】

●慢性便秘症への対応

・便の構成成分

→水分 75%、腸内細菌 13%、食物繊維 7%、その他 2% とほとんどが水分。水分が 70%未満になると便は硬くなる。

・慢性便秘症

→本来体外にはいしゅつすべき糞便を十分量つ快適に移出できない状態が続くめに日常生活に支障がでている状態。

・便秘の主な症状

→排便が週に 3 回未満、排便後残便感、強くいきまないと排便できない、硬い便、または兎糞状態、おなかが張る、便の量が少ない、腹痛・下腹部の不快感 など

・便は大きく、やわらかいほど出やすい。慢性便秘症では、現状の便をより排便しやすい形状に変えることが、治療目標の一つに挙げられる。

・慢性便秘症のおもな原因

→日常の水分摂取量が少ない、大腸で過剰に水分が吸収され便が硬くなる、大腸の動きが弱く、直腸まで便が運ばれにくい、直腸の排便反射が弱まる、過度な小食や食事制限、ストレスによる大腸蠕動運動の低下など

・理想的な排便コントロールのポイント

→①生活習慣の見直し（水分・食事の摂取量や内容、運動と睡眠）、②腹部マッサージ（15 分間×週 5 日がいいらしい）、③排便姿勢の確認、④便秘の原因にあった薬剤を選択（浸透圧性下剤・刺激性下剤・新治療薬）

※定例会開催にあたっての感染症対策

- ・体調確認と必要に応じて非接触型温度計による体温測定
- ・手指消毒・換気
- ・ZOOMを活用したオンライン研修

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

日時：令和 6 年 1 月 16 日（火） 午後 7 時～

場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室

内容：未定